募集句入賞作品（シニア部門）

選者特選

高野　ムツオ　選

鬼の名を賜り蜻蛉生まれけり　高知県　郵呆

【評】「賜り」はうやうやしく頂戴するという意味。しかし、人間はむろん虫であっても「鬼」の名を喜んで受けるはずはない。ここに作者のイロニーがある。鬼蜻蜓も獰猛に見えながら、ただ、無心にこの世に受けた生を営んでいるだけなのだ。

対馬　康子　選

もうよその子猫になつてゐる動画　群馬県　吉川　えり

【評】「もう」の一語に、子猫との別れを惜しむ思いと、時の移ろいへの驚きがこもる。かつて身近にいた子猫は、いまや「よその子猫」となり、動画の中に姿を見せるだけ。「動画」という現代的な素材が、会えない距離と時間をかえって鮮明にしている。新しい暮らしへの安堵と淡い寂しさが交錯して、温かくも切ない。

久保　純夫　選

半熟の唇で待つあをあらし　東京都　大塚　太夫

【評】青葉が横溢する世界。今そこに荒々しい強い風が吹いている。その真ん中に、何ものかを待っている人らしきものが立っている。その人が持つ唇は成熟したそれでも、少年・少女でもないようだ。この「半熟」は人の成長過程の妖しい時間を的確に表現している。

坂本　宮尾　選

仁丹は父の匂ひや昭和の日　埼玉県　横田　幸子

【評】やや古風ながら仁丹は今も根強い人気を保っている。その独特の匂いはまさに昭和を感じさせる。季語も効果的で、句からは父という存在への変わらない愛慕の気持ちが伝わる。

鈴木　しげを　選

さいたまのさきはひたまふ麦の秋　千葉県　武部　一成

【評】麦秋の光にみちあふれる埼玉への力強い祝意の句。さきはひの一語に象徴されている。「さ音」のひびきが心地よい。武蔵の国さいたまはかがやく。ねんりんピックにふさわしい作である。

福永　法弘　選

傘を背にしゃがむ道草かたつむり　　埼玉県　福地　敏子

【評】学校の帰り道だろう。雨が少し降っている。急がなければいけないのに、かたつむりを見つけて思わず道草してしまった。傘を背にしゃがむ姿と殻を背負うかたつむりの姿の相似も楽しい。

稲畑　廣太郎　選

青空のあふれさうなる代田かな　　東京都　澄子

【評】代を掻いて水を張り代田となると、最初は濁っていても、田を植える頃になるとその水もだんだん澄んでくる。その水面に青空が映っているのである。日本の美しい原風景が見て取れる。

岡安　紀元　選

見えさうで見えぬ天国鳥帰る　　神戸市　玉手　のり子

【評】天国が見えそうで見えないとは正に言い得て妙である。何ら遮るものの無い大空を一気に上昇気流に乗って帰って行く鳥たちの勇壮な姿を想像することが出来る。視覚では推し量れない様な大きな景を見事に活写した佳句である。

山田　佳乃　選

一冊の絵本のごとく夏は往く　　東京都　斉藤　敦子

【評】夏の日差しに負けないカラフルな色彩が溢れる季節。また長い休暇には様々な体験をし、ひと夏でずいぶん成長する。一枚ずつ色とりどりの頁をめくるように、印象的なシーンが心に残る夏。「絵本のごとく」という措辞に夏の生き生きとした日々がイメージされ、夏が過ぎ去る切ない気持ちがふと蘇ってくるような一句。

大会賞

もうよその子猫になつてゐる動画　群馬県　吉川　えり
さいたまのさきはひたまふ麦の秋　千葉県　武部　一成
鬼の名を賜り蜻蛉生まれけり　高知県　郵呆

優秀賞

満天の星は太古のままに冴ゆ　さいたま市　鳥屋　栄二
ものいわぬ蝉の涙に海がある　神戸市　小谷　徹
点描の夜桜騒く一の宮　さいたま市　本橋　稀香
石榴の実そろそろ洗脳解けるころ　さいたま市　広瀬　三知代
傘を背にしゃがむ道草かたつむり　埼玉県　福地　敏子
青空のあふれさうなる代田かな　東京都　澄子
青空へラムネ飲む子の喉仏　埼玉県　下田　純子
見えさうで見えぬ天国鳥帰る　神戸市　玉手　のり子
紫陽花や時計ばかりの骨董屋　東京都　松﨑　亜紀
しんがりは行く先知らず蟻の列　埼玉県　高野　風声

永き日の言葉あたため返しけり　新潟県　伊藤　一二三

追焚きのやうな晩年二重虹　さいたま市　安部　衣世

厨には西瓜しーんと買つてある　埼玉県　炭心

朝市や今日描く柿をひとつ買ふ　さいたま市　岡村　行雄

仁丹は父の匂ひや昭和の日　埼玉県　横田　幸子

一冊の絵本のごとく夏は往く　東京都　斉藤　敦子

半熟の唇で待つあをあらし　東京都　大塚　太夫

母も乗る回転木馬風光る　埼玉県　神崎　康光

糸取女指先に聴く糸のこゑ　神戸市　高橋　純子

いま春の土踏んでゐる生きてゐる　埼玉県　古橋　淑子

募集句入賞作品（一般部門）

選者特選

福本　弘明　選

戸辺までも青葉絡ませ洋食屋　　愛知県　三島　千晴

【評】出入口の扉の辺りまで青蔦に包まれた、町の小さな洋食屋。昭和レトロの雰囲気を残したまま、長年、地元の人に親しまれてきたお店を想像します。懐かしさとともに、変化する町中にあってずっと変わらない、異空間としての存在感を思います。

小川　軽舟　選

被災者に届くブラウス春隣　　大分県　岸本　恵美

【評】被災者への支援として届いたブラウス。一足先に春が来たような明るい色合いだったのだろう。災害がこの世から絶えることはない。助け合うことの大切さを改めて思う。

成田　一子　選

マクドナルドの袋の中の枯野かな　　横浜市　なつ　はづき

【評】明るく現代的なファストフードの袋に枯野を見ている。手軽に空腹を満たせるが、その後のどこか空虚な気持ちに枯野を感じたのかもしれない。カサカサと鳴る袋に、荒涼とした枯野の風が吹き抜ける。詩的飛躍が見事。

大会賞

被災者に届くブラウス春隣　大分県　岸本　恵美

優秀賞

病室の母と二人の花見かな　東京都　目黒　琴音

だむだむと怒りのピザをのばす春　熊本市　須藤　進乃助

練切の餡透けてゐるころもがへ　東京都　藤色　葉菜

文学や五月の海が眩しくて　東京都　加那屋　こあ

マクドナルドの袋の中の枯野かな　横浜市　なつ　はづき

マカロンの色を揃えて春隣　岐阜県　富田　泰仁

いわし雲たまに大物まぎれてる　岐阜県　可児　隼規

戸辺までも青葉絡ませ洋食屋　愛知県　三島　千晴

やみそうな雨を歩いて春惜しむ　東京都　諸星　千綾

星涼し鳩まんまるに眠らせて　愛媛県　奈良　香里

募集句入賞作品（ジュニア部門・小学生）

大会賞

朝焼けやシュッシュと牛のちちしぼり

愛媛県　愛媛大学教育学部附属小学校　三年　若狭　早

さくらもちをひとつ、春をひとくち。

埼玉県　幸手市立長倉小学校　四年　山本　己春

春の雨古本屋から猫が出る

埼玉県　幸手市立長倉小学校　五年　山口　希

むしかごにちょうちょとはいってあそびたい

埼玉県　加須市立高柳小学校　三年　石原　ひりゅう

収かくの新玉ねぎの香り立つ

埼玉県　加須市立高柳小学校　五年　三堀　燿

優秀賞

ぼくよりもおおきくなってカブトムシ
埼玉県　深谷市立幡羅小学校　一年　中島　洸政

カマキリのむしたべるとこだいすきだ
埼玉県　深谷市立幡羅小学校　一年　佐藤　伊鶴

人の声集まるところ祭りかな
埼玉県　深谷市立幡羅小学校　五年　鈴木　巴菜

ゆっくりと歩幅を合わす鰯雲
埼玉県　深谷市立幡羅小学校　六年　佐々木　優愛

ひまわりのそばでピアノをひくわたし
さいたま市　さいたま市立大谷場小学校　一年　原賀　楓花

生まれたての虹が上から落ちてくる
埼玉県　川越市立名細小学校　四年　大室　史華

土まぜて大きくそだてバケツいね
さいたま市　開智小学校　三年　松本　紗季

運動会つぶれたまめとなかなおり
さいたま市　開智小学校　四年　田代　咲良

ブリッジでさかさま世界雲のみね

さいたま市　開智小学校　四年　田代　咲良

さくらの実マッチみたいで火はつかぬ

東京都　小金井市立第一小学校　三年　荻本　史

四季のリレー桜も私も走り出す

さいたま市　さいたま市立浦和別所小学校　六年　堤　詩月

入学式一番最初がはずかしい

埼玉県　川口市立戸塚南小学校　五年　柿崎　力斗

テスト中けしごむパタン青嵐

さいたま市　さいたま市立仲町小学校　二年　吉井　佳純

さくら散る妹のくつがよちよちと

さいたま市　さいたま市立原山小学校　三年　山地　梓紗

田起こしやどこから来たの鷺の群れ

さいたま市　さいたま市立島小学校　三年　川本　わこ

かぶとむしおれない心つののよう

東京都　町田市立小山小学校　五年　平田　桔兵

向日葵がずっと見てくる僕じゃない

岐阜県　大垣市立上石津学園　五年　山田　珀人

春風よぼくの打球をもっていけ

東京都　東村山市立八坂小学校　四年　高橋　宗太

ししまいの声出す春の夜はひえる

富山県　高岡市立伏木小学校　六年　引田　裕太

麦畑みるみるかわる金色に

埼玉県　加須市立高柳小学校　五年　佐藤　幹太

募集句入賞作品（ジュニア部門・中学生）

大会賞

夕立や名前呼べずに傘たたむ
神奈川県　横須賀学院中学校　三年　片岡　洵

春の夕文庫本読む三鷹駅
北海道　函館ラ・サール中学校　一年　棟方　啓行

稲穂波言いかけた声風になる
さいたま市　さいたま市立土呂中学校　三年　本間　雫

水中眼鏡みるみるわれの魚となり
さいたま市　さいたま市立大宮東中学校　三年　櫻井　美翠

新しいノートに名前四月かな
埼玉県　杉戸町立杉戸南中学校　一年　玉野　咲希

優秀賞

夕焼けや帰り道だけ少し無言
さいたま市　さいたま市立美園南中学校　三年　高橋　明希

付箋いつぱい鱗のように貼る五月
愛媛県　愛媛大学教育学部附属中学校　三年　原田　泰輔

ラムネ玉喉の奥まで青かった
神奈川県　横須賀学院中学校　三年　片岡　洵

雲の峰静かに揺れる電車内
埼玉県　白岡市立南中学校　三年　藤原　駿

わらび餅きなこともに食べるべし
埼玉県　白岡市立南中学校　三年　大堰　誠太

月涼し寛解という途中駅
福島県　郡山市立大槻中学校　二年　桑名　優空

一本のひまわり天を仰ぎけり
さいたま市　さいたま市立土呂中学校　三年　栗原　優

遠花火音の遅れて胸に届く
さいたま市　さいたま市立土呂中学校　三年　栗原　優

青空を入道雲が突き破る

さいたま市　さいたま市立土呂中学校　三年　山口　誠司

一瞬の光に開く大花火

さいたま市　さいたま市立土呂中学校　三年　厚澤　陽菜

桜へと涙こぼるる帰り道

さいたま市　さいたま市立土呂中学校　三年　諏訪　悠夏

夏座敷附子の狂言にやりとす

埼玉県　戸田市立新曽中学校　三年　海藤　煌生

最後の大会いつものタオルで汗を拭く

さいたま市　さいたま市立大宮東中学校　三年　根本　壮一朗

君のこと好きになってた新学期

岐阜県　美濃加茂市立東中学校　一年　アレマニア　イチジロ

春光や緊張しながら通る門

埼玉県　杉戸町立杉戸南中学校　一年　岩田　理人

五十分授業の窓につばめかな

埼玉県　杉戸町立杉戸南中学校　一年　和田　結生

汗ぬぐうタオルが重い部活かな

さいたま市　さいたま市立柏陽中学校　二年　古橋　ひまり

教科書を閉じて始まる夏休み

さいたま市　さいたま市立柏陽中学校　二年　秋谷　莉愛

五月晴れ仲間とつかむ優勝杯

埼玉県　東京農業大学第三高等学校附属中学校　三年　堀江　桜耶

五月雨の廊下に響くチューニング

埼玉県　坂戸市立住吉中学校　三年　松下　実央

募集句入賞作品（ジュニア部門・高校生）

大会賞

夏浅し客死の人の詩を写す

群馬県　群馬県立高崎女子高等学校　二年　富岡　咲貴

試合終え敵も味方も日向ぼこ

山口県　柳井学園高等学校　三年　竹重　咲晴

バッシュ脱ぐ擦り切れし紐夏の果

山口県　柳井学園高等学校　三年　瀬頭　佳夏

チャイム鳴るノートの端に春の風

山口県　柳井学園高等学校　三年　下松　咲優

月涼し読みかけの本胸で閉じ

神戸市　神戸市立須磨翔風高等学校　二年　國吉　羽音

優秀賞

三月はにぎやかだった姉の部屋
長野県　長野県野沢南高等学校　三年　田中　莉駆

返却のテストを伏せて夏近し
大阪府　箕面自由学園高等学校　三年　大浦　綸

黒板の日付そのまま夏休み
大阪府　箕面自由学園高等学校　三年　大浦　綸

夕立や校舎の窓に残る熱
宮崎県　鵬翔高等学校　一年　池田　虎吉

鶯や抹茶のうまく泡立たず
東京都　海城高等学校　三年　小平　健輔

目標はノートのはしに二月尽
埼玉県　埼玉県立狭山緑陽高等学校　一年　志賀　澄花

人生の秘密の手紙揚羽蝶
埼玉県　埼玉県立狭山緑陽高等学校　一年　田中　柚宇

消しゴムは消せば消すほど秋近し
埼玉県　埼玉県立狭山緑陽高等学校　二年　原　巧

夕暮れのコンビニ前の春の泥
埼玉県　埼玉県立狭山緑陽高等学校　三年　齋藤　響

前髪よ早く伸びろと夏の空
埼玉県　埼玉県立栗橋北彩高等学校　二年　野間　千裕姫

体育館声出し走り出すと汗
埼玉県　埼玉県立栗橋北彩高等学校　二年　田利　百花

大洗濯ラグビーマネの夏の朝
埼玉県　埼玉県立栗橋北彩高等学校　一年　坂井　心愛

帰り道イヤホン越しの虫の声
山口県　柳井学園高等学校　二年　池田　美優

若葉して街の色まで軽やかに
山口県　柳井学園高等学校　三年　沖本　彩愛

雨音を消しさるボール体育館
山口県　柳井学園高等学校　三年　河内　優奈

ばかでかい氷柱取り合う小学生
岐阜県　聖マリア女学院高等学校　二年　辻　梨央

かけ声をかき消すほどのせみの声
埼玉県　秀明高等学校　二年　関本　凱

新緑やチャイムに急ぐスニーカー

埼玉県　秀明高等学校　二年　澤田　万由子

夜半の冬全てが淡く青い街

埼玉県　埼玉県立栗橋北彩高等学校　二年　出井　遥

放課後の電車にゆられ夏の風

埼玉県　埼玉県立栗橋北彩高等学校　二年　モヨ　タンデカ

募集句入選作品（シニア部門）

高野　ムツオ　選

満天の星は太古のままに冴ゆ　さいたま市　鳥屋栄二
拝礼に初蝉の声とどきけり　埼玉県　川名久美子
あの山を「御山」と呼んで花りんご　埼玉県　大畑光弘
蛇行する大河に力夏燕　埼玉県　稲田眸子
もうよその子猫になつてゐる動画　群馬県　吉川えり
せり終へて秋風の吹く港町　岐阜県　安藤節子
母も乗る回転木馬風光る　埼玉県　神崎康光
朔太郎忌の一幹の今年竹　東京都　神戸サト

坂本　宮尾　選

朝市や今日描く柿をひとつ買ふ　さいたま市　岡村行雄
紫陽花や時計ばかりの骨董屋　東京都　松﨑亜紀
廃校の庭にとんどの竹を組む　神戸市　岸下庄二
ぱらぱらとノートめくれて夕立来　東京都　鹿谷白月
白シャツの吸ひ込まれゆく男子校　群馬県　秋元倶子
母も乗る回転木馬風光る　埼玉県　神崎康光
ケーキ屋の新作選ぶ薄暑かな　埼玉県　渡辺優子
山深く入るほど初音整ひぬ　埼玉県　はぎはら陽里

対馬　康子　選

ものいわぬ蝉の涙に海がある　神戸市　小谷徹
八月や忘るることを繰返し　静岡県　湖東紀子
おほかみが螢をさがす兜太の忌　長崎県　入口弘徳
乳房なき方の胸には螢籠　東京都　坂田晃一
蟻の曳く八月の透明な欠片　埼玉県　望月士郎
アルバムの剥がし痕濃し終戦日　さいたま市　山田桂
半熟の唇で待つあをあらし　東京都　大塚太夫
さいたまのさきはひたまふ麦の秋　千葉県　武部一成

鈴木　しげを　選

いま春の土踏んでゐる生きてゐる　埼玉県　淑子
糸取女指先に聴く糸のこゑ　神戸市　高橋純子
子に遺すものなき障子張りにけり　福岡県　梶原マサ子
調律のララ菜の花蝶と化す　愛媛県　原田マチ子
句会みな昭和生まれの昭和の日　岩手県　工藤幸子
ゆるやかな母との時間桃の花　埼玉県　鈴木規子
心電図の波形ととのふ秋日和　埼玉県　太田秀美
父母を訪ふならひ蜜柑の花の頃　埼玉県　満月
ソプラノの煌めくアリア冬銀河　埼玉県　田部恭子

久保　純夫　選

厨には西瓜しーんと買つてある　埼玉県　炭心
石榴の実そろそろ洗脳解けるころ　さいたま市　広瀬三知代
朝まだき硯に受ける芋の露　埼玉県　小林幸子
五月晴なんでもできるフライパン　北九州市　山本悦子
失恋や冷蔵庫からチョコ一つ　北九州市　くぅ
ひと枝を塀にあづけて柚子熟るる　埼玉県　廣繁ともみ
柿若葉犬の寝てゐる駐在所　さいたま市　三浦真由美
暖かや透きて明るき猫の耳　岐阜県　衣斐知恵子

福永　法弘　選

もうよその子猫になつてゐる動画　群馬県　吉川えり
永き日の言葉あたため返しけり　新潟県　伊藤一二三
脱ぎてより旅の余韻の夏帽子　埼玉県　井上琴吹
あかときのあをを宿せり牽牛花　東京都　佐藤ひろみ
春泥や売らるる牛の足の跡　大阪府　大久保公貴
さきたまの臍てふところ麦踏めり　東京都　山本甲斐
花曇り診察待ちの本二冊　さいたま市　山田隆
難聴者なれどコーラス春うらら　埼玉県　佐藤けい子
八月やトラック島を地図に見る　埼玉県　葉月

稲畑　廣太郎　選

鬼の名を賜り蜻蛉生まれけり　高知県　郵呆
青空へラムネ飲む子の喉仏　埼玉県　下田純子
白牡丹全てをさらし崩れけり　埼玉県　水川聖子
弁当にはちきれさうに秋つめて　東京都　鈴木サキ子
海市出て海市に戻る巡視船　埼玉県　渡邉照夫
しんがりは行く先知らず蟻の列　埼玉県　高野風声
空蟬に便り運ぶや風の精　埼玉県　脇山勝之
少し慣れ少し疲れて五月かな　岐阜県　藤野幸子
炎天下球児の顔の黒光り　岐阜県　奥田和子

岡安　紀元　選

追焚きのやうな晩年二重虹　さいたま市　安部衣世
慰霊碑は祈りのかたち百千鳥　愛媛県　山中清子
１００円の表は桜風光る　埼玉県　渡辺智恵
春立つやポストに旅の情報誌　岐阜県　辻雅宏
川音にはじまる古道更衣　川崎市　植竹春子
彩雲を掻き分ける匙かき氷　東京都　坂田晃一
草矢打つ優等生をはみ出して　埼玉県　井上和枝
蝶飛べり翅が休んでくれなくて　東京都　島袋琉映
故郷は距離より遠く夏の果て　さいたま市　夏遠

山田　佳乃　選

点描の夜桜騒く一の宮　さいたま市　本橋稀香
夏の日や少女の肌に砂光る　奈良県　西井千里
靴跡に靴を重ねて雪の道　岐阜県　磯部妙子
戀一字二十三画近松忌　東京都　宇志やまと
古墳より低き家々冬に入る　横浜市　中島敏晴
待つほどに濃くなる時間五月闇　さいたま市　中島ますみ
追はれてもまた同じ場所冬の蝿　鳥取県　築谷昭美
蜻蛉やふいと曲がりしあとの空　さいたま市　鵜飼克枝
しんがりは行く先知らず蟻の列　埼玉県　高野風声

募集句入選作品（一般部門）

福本　弘明　選

マカロンの色を揃えて春隣　岐阜県　富田泰仁
いわし雲たまに大物まぎれてる　岐阜県　可児隼規
被災者に届くブラウス春隣　大分県　岸本恵美
スイカ切る言いたいことはちゃんと言う　埼玉県　緑加
鉄棒の錆びし匂ひや赤蜻蛉　千葉県　悠悠
枯葉にも個性のありて反り返る　群馬県　落合久美子
練切の餡透けてゐるころもがへ　東京都　藤色葉菜
花万朶だれもすべらぬすべり台　東京都　森田秋津
故郷のアンテナ高し麦の秋　さいたま市　高岩雪枝

小川　軽舟　選

病室の母と二人の花見かな　東京都　目黒琴音
やみそうな雨を歩いて春惜しむ　東京都　諸星千綾
風光る祖父母を前に逆上がり　群馬県　金子歩美
仕事終へ飲むコーヒーや春北斗　群馬県　木下美樹枝
元騎手へ駆け寄る老馬牧開　福井県　雛
雨過ぎて歩く街並み風薫る　大阪市　小西秀輝
藤の実の下にサラリーマンの昼　東京都　實重万葉子
朝寒や母の畑のもぐら塚　愛媛県　森清香
句集など並べて薫風のフリマ　東京都　加那屋こあ

成田　一子　選

文学や五月の海が眩しくて　東京都　加那屋こあ
星涼し鳩まんまるに眠らせて　愛媛県　奈良香里
魔法とかなくても梨を分け合えば　埼玉県　梅頭ぱせを
だむだむと怒りのピザをのばす春　熊本市　須藤進乃助
練切の餡透けてゐるころもがへ　東京都　藤色葉菜
音が音壊して夏至の野外フェス　さいたま市　吉田孝子
白鳥やホテルは夜を膨らませ　横浜市　吉村洋子
ひとしきり泣いて真昼の春キャベツ　川崎市　こもりく
北窓を開くや明日転校す　東京都　野村由泯

募集句入選作品（ジュニア部門・小学生）

田植えの日ぼくは朝から大忙し	埼玉県	吉見町立北小学校	四年	小柳柊真
ベランダで家族寄り添う遠花火	さいたま市	さいたま市立常盤小学校	四年	西塚礼
てつぼうでぐるりとなつをいっしゅうだ	さいたま市	さいたま市立大和田小学校	一年	佐々木一芯
わたしにはわたしのことば心太	埼玉県		三年	五味美桜里
入道雲見上げて走る坂の道	埼玉県	久喜市立本町小学校	五年	王一涵
青春の切符を握る春の朝	埼玉県	久喜市立本町小学校	五年	木村隼
イースター卵の中の菓子食べる	埼玉県	戸田市立新曽北小学校	六年	梅田陽都
沈めてもだんだん浮かぶ浮人形	埼玉県	戸田市立新曽北小学校	六年	鈴木彩羽
風吹いて舞台全体桜まう	東京都	中野区立令和小学校	六年	諸星一千花
バス登校窓の外には秋の道	岐阜県	大垣市立上石津学園	五年	大久保綾乃
春の夜前の先生に手紙書く	富山県	高岡市立伏木小学校	四年	高井春妃
家の前兄弟四人の雪がっせん	富山県	高岡市立伏木小学校	五年	髙有彩蘭
青嵐ノートの端をめくり去る	埼玉県	幸手市立長倉小学校	六年	武藤涼雅
ぼくのだけせんこう花火すぐおちる	埼玉県	幸手市立長倉小学校	五年	中里維吹
かぶと虫おのれの道を決めている	東京都	北区立都の北学園	六年	堀籠杏
雨の中親を待ってる燕の巣	埼玉県	鴻巣市立鴻巣北小学校	五年	宮田紘
たこあげたこのままたいようとどくかな	埼玉県	深谷市立幡羅小学校	一年	飯野泉吹
こいのぼりおばあちゃんちまでつれてって	埼玉県	深谷市立幡羅小学校	一年	田中凱音
寒い日もいつも笑顔なお母さん	埼玉県	深谷市立幡羅小学校	五年	西山稀美
新緑の水玉光る蜘蛛の糸	さいたま市	さいたま市立大宮南小学校	五年	福島啓介
桜散り白く染まった用水路	さいたま市	さいたま市立岩槻小学校	六年	金子凛
夏休み思い出の海青かった	さいたま市	さいたま市立島小学校	四年	中島咲弥
秋澄むやどこまで続く青き空	埼玉県	戸田市立新曽北小学校	五年	熊木沙耶
六校時終わりのチャイムとセミの声	埼玉県	戸田市立新曽北小学校	五年	有田莉心
全校で航空写真春の虹	さいたま市	さいたま市立仲町小学校	二年	吉井佳純
かぶりつくバナナクレープ風光る	愛媛県	宇和島市立成妙小学校	五年	櫻庭渚
夏の空宝石みたいなメダカたち	埼玉県	川口市立戸塚南小学校	五年	柳澤結希
春の日に家ぞくではじめた畑作業	岐阜県	揖斐川町立北方小学校	四年	角田健太朗
ちょうちょはね空でぼうけんつづいてる	埼玉県	春日部市立藤塚小学校	四年	鴇田稜佑
へちまの葉ざらざらしてるうらもだよ	埼玉県	東村山市立八坂小学校	四年	工藤朱美玲
弟の手にはみかんのにおいする	富山県	高岡市立伏木小学校	五年	村田惇
楽しみだにわのあじさいなに色か	埼玉県	幸手市立長倉小学校	三年	小川陽咲
ランドセルにもつぎゅうぎゅうあせたらり	埼玉県	春日部市立備後小学校	一年	山口莉穂
花ぐもりやすみじかんにまどをみた	埼玉県	鴻巣市立鴻巣北小学校	五年	久保田琴葉
しおひがりかいがらだけのかえりみち	埼玉県	深谷市立幡羅小学校	一年	鈴木ひかり
カタツムリ行きたい所へいつ着くの	埼玉県	白岡市立南小学校	六年	的場俊樹
春の青空に桜と小鳥が飛ぶときなんだ	埼玉県	所沢市立椿峰小学校	六年	室田翼

みなさんにお知らせあるよ春の風	さいたま市	さいたま市立上里小学校	四年	宮﨑奏多
芽が出ないクラスでひとりホウセンカ	さいたま市	さいたま市立大久保東小学校	三年	川上怜夏
あやとりの本七冊と夏休み	埼玉県		三年	五味美桜里
こいみどりあふれ出す音夏がきた	さいたま市	さいたま市立大谷小学校	四年	釜井悠
ゆきだるまスライディングでふきとばす	東京都	町田市立小山小学校	五年	木谷星渚
たいそうでとびばことんだ春の風	岐阜県	揖斐川町立北方小学校	四年	牧村咲良
キャプテンのパスからシュートきめた春	富山県	高岡市立伏木小学校	三年	岡田幸大
そっくりに竹の子かいた五時間目	富山県	高岡市立伏木小学校	三年	竹内紘乃
青葉風私のぼうしをつかまえた	宮崎県	延岡市立旭小学校	六年	中西禾帆
鳥や静かな夜のＤＪか	宮崎県	延岡市立旭小学校	五年	菅原和紘
雪降れば命の足跡現れる	さいたま市	さいたま市立東宮下小学校	五年	神山結華
空光る花火がまるで粉砂糖	さいたま市	さいたま市立東宮下小学校	六年	仲野琴音

募集句入選作品（ジュニア部門・中学生）

雪だるま朝にはいないさようなら	さいたま市	さいたま市立柏陽中学校	二年	清水音夢
ぼんやりと月夜が照らす金閣寺	埼玉県	白岡市立南中学校	三年	図斉柊弥
はすの葉に水が滴る唐招提寺	さいたま市	さいたま市立大宮西中学校	三年	武田唯吹
炎天下全力疾走スパイクで	さいたま市	さいたま市立大成中学校	一年	本内羽暖
花冷えの頃に僕らは新学期	さいたま市	さいたま市立大成中学校	一年	舘野颯太
早朝やあたりに響く夏稽古	岐阜県	大垣市立上石津学園	三年	伊藤杏里
部活動暑さに負けぬ勝負心	さいたま市	さいたま市立土呂中学校	三年	竹部莉未
夏空やお辞儀を返す鹿一頭	埼玉県	戸田市立新曽中学校	三年	細田青葉
梅雨晴れやトロッコゆれる保津の川	埼玉県	戸田市立新曽中学校	三年	小山未夏
卒業式なみだのおちる音がする	さいたま市	さいたま市立大宮東中学校	三年	小見旺資
貝がらを探す妹と泳ぐ我	さいたま市	さいたま市立大宮東中学校	三年	川田新菜
青春をさくら並木がつつみこむ	岐阜県	美濃加茂市立東中学校	一年	福村ひなた
夏めく日絆深まるバトンパス	埼玉県	杉戸町立杉戸南中学校	一年	福田蓮矢
夏の海肩まで浸かるひんやりと	さいたま市	さいたま市立柏陽中学校	二年	庄司成羅
ところどころ関所もあるよ蟻の列	愛媛県	愛媛大学教育学部附属中学校	三年	原田泰輔
六月の京の甘味でひとやすみ	埼玉県	白岡市立南中学校	三年	川上綾乃
短夜や笑い止まらぬ帰り道	岐阜県	大垣市立上石津学園	三年	髙木祐花
故郷から蛍と共に異世界へ	岐阜県	大垣市立上石津学園	三年	片山乃碧
すれ違うカレーのにおい春の宵	北海道	函館ラ・サール中学校	一年	棟方啓行
トンボ見てわくわくできる帰り道	さいたま市	さいたま市立土呂中学校	三年	奥澤龍典
行く春や新幹線で語る夢	埼玉県	戸田市立新曽中学校	三年	二階堂龍音
梅雨晴や友と歩きし古都の道	埼玉県	戸田市立新曽中学校	三年	小山心結
夏空や池にゆらめく金閣寺	埼玉県	戸田市立新曽中学校	三年	君島和華
新緑をぬけては続く赤鳥居	埼玉県	戸田市立新曽中学校	三年	檜垣成希
払っても払っても頭の上の蚊柱	さいたま市	さいたま市立大宮東中学校	三年	田中梨桜
マフラーのない首筋が軽い	さいたま市	さいたま市立大宮東中学校	三年	土矢瑞希
陽炎や街に私が吸われゆく	さいたま市	さいたま市立大宮東中学校	三年	伊藤いすず
全力で汗かきながら学校へ	岐阜県	美濃加茂市立東中学校	一年	佐合ひだま
朝早く走っていると春風が	岐阜県	美濃加茂市立東中学校	一年	田﨑陽菜
しゃぼん玉染まりて薄る桜色	埼玉県	杉戸町立杉戸南中学校	一年	松田怜
揮発する酸っぱい思い出レモンスカッシュ	さいたま市	さいたま市立大宮国際中等教育学校	二年	落合壮祐
夏休み単身赴任の父を待つ	さいたま市	さいたま市立常盤中学校	一年	國府田莉菜
君にだけ素直な心立葵	岐阜県	聖マリア女学院中学校	三年	鍋山佳菜子
蓮の花丹精込めて筆を持つ	岐阜県	大垣市立上石津中学校	三年	髙木菜月
ファインダー夏草香る成田線	さいたま市	さいたま市立土呂中学校	三年	若旅遼太郎
ヒイラギと寒気が鋭く空を刺す	さいたま市	さいたま市立土呂中学校	三年	保坂真衣
夏空にこげた私と白い雲	さいたま市	さいたま市立土呂中学校	三年	大和田晴陽

汗かいて三年坂を一歩ずつ　埼玉県　戸田市立新曽中学校　三年　吉野向葵

扇風機に叱られ続ける午後　さいたま市　さいたま市立大宮東中学校　三年　田原侑馬

一歩ふむしも柱のがっしょうたい　さいたま市　さいたま市立柏陽中学校　一年　大矢圭祐

ハエとまるもうたべられないあげパンのきもち　さいたま市　さいたま市立柏陽中学校　一年　山邊涼介

汗を拭くタオルの中に響く蟬　埼玉県　東京農業大学第三高等学校附属中学校　三年　道善理結

ユニフォームもう着ない日々夏休み　埼玉県　坂戸市立住吉中学校　三年　ハーディ紫

募集句入選作品（ジュニア部門・高校生）

回りにはハンマーがある四月馬鹿　埼玉県　埼玉県立狭山緑陽高等学校　二年　齋藤蒼空
風ふわりぽぽぽと咲いて揺れミモザ　埼玉県　埼玉県立秩父高等学校　二年　町田真緒
言い訳を鞄にしまい青葉風　埼玉県　星野高等学校　二年　永塚真歩
自転車のサドルが熱い緑立つ　埼玉県　埼玉県立狭山緑陽高等学校　二年　井戸俊佑
大晦日スマホ伏せれば鐘の音　埼玉県　埼玉県立栗橋北彩高等学校　二年　飯田真
先輩にパスをまっすぐ夏の空　埼玉県　埼玉県立栗橋北彩高等学校　三年　菅田俊之介
水面揺れ雲をほどいて夏は来ぬ　山口県　柳井学園高等学校　二年　杉本歩美
若葉して街の色まで軽やかに　山口県　柳井学園高等学校　三年　沖本彩愛
夕焼けを眺めながらの深呼吸　山口県　柳井学園高等学校　三年　岡村唯花
真夜中に皆を見守るカシオペア　神戸市　神戸市立須磨翔風高等学校　二年　島田晴守
水族館ライトアップに海月浮く　神戸市　神戸市立須磨翔風高等学校　二年　藤本翔真
タメロを注意できずに秋暑し　岐阜県　聖マリア女学院高等学校　三年　北村瑞希
麗かな君の姿を遠く見る　岐阜県　聖マリア女学院高等学校　二年　牧村凛音
スイカ食べたねをぺっぺととばすかな　埼玉県　秀明高等学校　二年　長谷川丈二
新入生一年前の自分自身　埼玉県　秀明高等学校　二年　岩野志保
授業中雲は重そう梅雨に入る　埼玉県　埼玉県立栗橋北彩高等学校　二年　荻原京平
軽井沢犬と黙して見る木立　さいたま市　青山学院大学系属浦和ルーテル学院高等学校　一年　橋本美咲
竹林の風に身を寄せ立ち止まる　さいたま市　埼玉県立浦和商業高等学校　一年　浮田歩
青葉風すするうどんの白さかな　岡山市　岡山学芸館高校　二年　赤川寛卓
春の夜サービスエリアまで歩く　群馬県　群馬県立高崎女子高等学校　二年　富岡咲貴
春の風新しい道歩きだす　埼玉県　埼玉県立狭山緑陽高等学校　一年　古賀アズミ
先生はなんでもできる風光る　埼玉県　埼玉県立狭山緑陽高等学校　一年　竹内郁翔
星空を忘れた街の夕桜　埼玉県　埼玉県立狭山緑陽高等学校　三年　田巻乃愛
放課後のチャイムに混ざる春の風　埼玉県　埼玉県立狭山緑陽高等学校　三年　長沼愛麗
ぶら下げるたんけんボード春の風　埼玉県　埼玉県立狭山緑陽高等学校　二年　日髙優奈
青空に白球のびる夏の午後　山口県　柳井学園高等学校　一年　辻木大和
日焼けして消えぬ思い出肌にある　山口県　柳井学園高等学校　二年　宮本萌花
拭う汗仲間の背中追いかける　山口県　柳井学園高等学校　三年　竹重咲晴
日が昇り服をぬぎゆく雪だるま　東京都　東京都立橘高等学校　二年　恒成史穂
センセイの説く「差別」と「区別」金魚玉　山梨県　山梨県立吉田高校　二年　水野瑛太
立葵父の背中は広かった　岩手県　岩手県立水沢高等学校　二年　宮澤凜
空港のパスポート手に桜まじ　埼玉県　埼玉県立狭山緑陽高等学校　一年　髙山莉珠
寝不足のひじつく授業残花かな　埼玉県　埼玉県立狭山緑陽高等学校　二年　久保愛海
片方のくつしたなくし落第す　埼玉県　埼玉県立狭山緑陽高等学校　二年　北岸ひなた
幸せの切符探してしゃぼん玉　埼玉県　埼玉県立狭山緑陽高等学校　二年　原真奈美
夏祭り君がとなりにあつくなる　埼玉県　埼玉県立栗橋北彩高等学校　二年　長谷川カービ
配られる硬き表紙の春の風　山口県　柳井学園高等学校　二年　藤本愛

花びらのシャワーを浴びて進む道

友達と片耳つなぐ寒い中

美しい茎見えそろふ曼殊沙華

桜散る届かぬ君の既続待つ

鈴虫は夜の小さなラジオかな

山口県　柳井学園高等学校　三年　福永瑞記

神戸市　神戸市立須磨翔風高等学校　二年　奥平虹心

岐阜県　聖マリア女学院高等学校　二年　森惺羅

岐阜県　聖マリア女学院高等学校　二年　後藤珠里

埼玉県　秀明高等学校　二年　吉田信之

第38回全国健康福祉祭埼玉大会
ねんりんピック彩の国さいたま2026

俳句交流大会　当日句入選句集

片山　由美子　選

特　選

参道の風を袂に七五三　　埼玉県　萩原　陽里

秀　逸

落ち葉舞ふ鳥居潜ればまた鳥居　　さいたま市　東　咲江
玉砂利をしづかに踏める菊花展　　さいたま市　柊　ゆう
もういいかい鬼の声する神の留守　　埼玉県　神山　憲治

並　選

参道のつくづく長し石蕗の花　　埼玉県　林田　美音
千本の欅のにほふ冬はじめ　　東京都　橘　いずみ
一陽来復蕎麦に七味の景気よし　　埼玉県　黒澤　あき緒
神の留守快晴なれど風強し　　東京都　白石　正人
丁石の残る参道柿落葉　　埼玉県　髙橋　風和里
楼門の開門告げて冬に入る　　茨城県　和田　富子

井上　泰至　選

特　選

立冬や天に任すといふことも　　さいたま市　島貫　恵

秀　逸

がやがやと武蔵の国や冬に入る　　埼玉県　辻村　麻乃
神門をくぐると七五三の貌　　埼玉県　吉川　あかし
看板の太宰の旧居冬に入る　　さいたま市　岩﨑　純子

並　選

雲払ひのけて光るや神渡　　東京都　飯島　千青
行幸の絵巻をなぞる冬日影　　埼玉県　鈴木　月惑
氷川社の欅半里の黄葉かな　　さいたま市　井上　幸夫
小波は遠くの光石蕗の花　　埼玉県　古橋　淑子
柏手の背じんじんと冬日差す　　さいたま市　石田　麻紀
参道のつくづく長し石蕗の花　　埼玉県　林田　美音

後藤　章　選

特　選

鵙来る乾ききつたる風のなか　　東京都　茨木　紀子

秀　逸

神の留守巫女にお嫁の話くる　　さいたま市　増田　信雄
神の留守片目を開けるアラハバキ　　東京都　米原　拓土
神輿舎の地に力石紅葉置く　　横浜市　門脇　由里子

並　選

音違ふ日向日陰や落葉踏む　　埼玉県　鈴木　規子
かたはらに鍬力の如雨露菊花展　　埼玉県　田口　紅子
飛行塔吾子と見上ぐる秋の空　　さいたま市　小林　一歩
フラミンゴの脚突立つて冬に入る　　さいたま市　伊藤　泰子
朝沓の音のそろひて冬に入る　　埼玉県　井越　芳子

藤本　美和子　選

特　選

玉砂利の立冬の音一の宮　　さいたま市　竹田　正明

秀　逸

音違ふ日向日陰や落葉踏む　　埼玉県　鈴木　規子
舞殿に雀もはねて七五三　　さいたま市　黒岩　裕介
丁石の昨夜の落葉を払ひけり　　埼玉県　沼尾　將之

並　選

フラミンゴの脚突立つて冬に入る　　さいたま市　伊藤　泰子
団栗を拾ふか拾はぬか迷ふ　　埼玉県　田口　武
今朝の冬一礼深く一の宮　　さいたま市　石井　喜恵
秀長を一歩下がらせ菊人形　　埼玉県　龍野　龍
楼門の開門告げて冬に入る　　茨城県　和田　富子
綿虫の舞ふや氷川の十八丁　　横浜市　永澤　功

木暮　陶句郎　選

特　選

神池の亀ぽちやりんと冬に入る　　東京都　長谷部　かず代

秀　逸

冬の鵙高鳴く武蔵一の宮　　さいたま市　栗原　季星
走り根に傾ぐ丁石天高し　　埼玉県　稲田　眸子
神の水きりきり緊まる今朝の冬　　埼玉県　小山　八寿子

並　選

瑞垣のひまに残れる烏瓜　　さいたま市　中川　雅司
鰐口に託す長寿や冬の宮　　東京都　嶺　明徳
がやがやと武蔵の国や冬に入る　　埼玉県　辻村　麻乃
参道の奥行深し冬木の芽　　さいたま市　本橋　稀香
小春日の風に十色の袋絵馬　　千葉県　山田　浩司

網野　月を　選

特　選

冬立つや鳥居の影を踏む烏　　さいたま市　太田　野風

秀　逸

アルディージャ色のポストや穴惑　　さいたま市　駒　町
秀長を一歩下がらせ菊人形　　埼玉県　龍野　龍
七五三後ろ歩きのカメラマン　　さいたま市　折原　孝美

並　選

銀杏映えて金婚の妻乙女ぶり　　さいたま市　大森　毅
母のゆく参道長し石蕗の花　　静岡市　杉山　洋子
参道の白鮮やかな花八ツ手　　さいたま市　中嶋　良子
風に揺れ背を貸してと冬の蝶　　埼玉県　河野　はるみ
せんべい屋のかたむきかげん神の留守
輪の中に髭の先生石蕗の花　　東京都　馬淵　ありす
　　埼玉県　越智　涼

第38回全国健康福祉祭埼玉大会
ねんりんピック彩の国さいたま2026

俳句交流大会　当日句入選句集

望月　周　選

特　選

母のゆく参道長し石蕗の花　静岡市　杉山　洋子

秀　逸

吟行をめぐる訃報や冬の蝶　東京都　川崎　果連
唐辛子朱といささかの草の色　横浜市　大山　修三
生と死の間すっくと冬の菊　埼玉県　田中　朋子

並　選

音違ふ日向日陰や落葉踏む　埼玉県　鈴木　規子
パパのスーツママのスカート七五三　埼玉県　梅沢　弘
神の留守巫女にお嫁の話くる　さいたま市　増田　信雄
七五三後ろ歩きのカメラマン　さいたま市　折原　孝美
七五三紅き唇とがらせて　群馬県　宮内　千早
本殿を囲ふ足場も冬日向　さいたま市　鵜飼　広計

今瀬　一博　選

特　選

空風に鳴る武蔵野の大欅　さいたま市　増田　健一

秀　逸

神渡し着飾る人を置いてゆく　埼玉県　小林　水迷
綿虫の舞ふや氷川の十八丁　横浜市　永澤　功
落ち葉舞ふ鳥居潜ればまた鳥居　さいたま市　東　咲江

並　選

拝殿に合はす手の皺冬に入る　さいたま市　石田　清秀
促され小さき一礼七五三　さいたま市　やすし
天長地久みんなで瓢の実を鳴らす　埼玉県　鳥山　由貴子
未来へとV字大きく七五三　東京都　高橋　透水
冬の日に背の温もりて氷川様　米国　三浦　恭子
日本一の参道歩く神の留守　東京都　須川　久

阪西　敦子　選

特　選

ががやがやと武蔵の国や冬に入る　埼玉県　辻村　麻乃

秀　逸

寒晴や木肌の濡るる二の鳥居　埼玉県　菊地　英
いちはやくひかりうけとめ石蕗の花　さいたま市　金井　裕子
博物館の煉瓦に影や笹子鳴く　さいたま市　やまもと　葉美

並　選

七席も見応へのあり菊花展　名古屋市　淺井　ひと詩
玉砂利のひとつぶ拾う七五三　さいたま市　鵜飼　克枝
玉砂利の音参道の千歳飴　埼玉県　古川　みさを
凩や東口出て北南　東京都　長谷川　はるか
排水溝の蓋のぐわらんと冬に入る　埼玉県　鈴木　牛後
子と鳩と地べた分け合ふ小春かな　東京都　川目　紫

長谷川　槙子　選

特　選

輪の中に髭の先生石蕗の花　埼玉県　越智　凉

秀　逸

七五三紅き唇とがらせて　群馬県　宮内　千早
千本の欅のにほふ冬はじめ　東京都　橘　いずみ
参道に横道幾つ花八つ手　埼玉県　井上　和枝

並　選

冬晴れや日本一の木の鳥居　さいたま市　伊藤　正文
神楽鈴めける八手の花ゆれて　群馬県　武井　禎子
玉砂利をしづかに踏める菊花展　さいたま市　柊　ゆう
吾亦紅揺らす少女は反抗期　東京都　木佐美　照子
もういいかい鬼の声する神の留守　埼玉県　神山　憲治
今朝の冬一礼深く一の宮　さいたま市　石井　善恵

山﨑　十生　選

特　選

団栗を拾ふか拾はぬか迷ふ　埼玉県　田口　武

秀　逸

参道に横道幾つ花八つ手　埼玉県　井上　和枝
瑞垣のひまに残れる烏瓜　さいたま市　中川　雅司
落款のごとくぽつんと浮寝鴨　埼玉県　金子　美津子

並　選

落葉の作法再生のアンダンテ　さいたま市　宮澤　順子
音違ふ日向日陰や落葉踏む　埼玉県　鈴木　規子
走り根に傾ぐ丁石天高し　埼玉県　稲田　眸子
冬立つや鳥居の影を踏む烏　さいたま市　太田　野風
丁石の昨夜の落葉を払ひけり　埼玉県　沼尾　將之

堀之内　長一　選

特　選

子と鳩と地べた分け合ふ小春かな　我が指にねんりん在りやイチョウの実

秀　逸

タップ踏み小鳥ふわりと宮の屋根　冬麗やまた出会ひたる老ランナー

並　選

未来へとV字大きく七五三　東京都　高橋　透水
冬蜂の終の褥やささざれ石　さいたま市　佐藤　慶夫
寒晴や木肌の濡るる二の鳥居　埼玉県　菊地　英
天長地久みんなで瓢の実を鳴らす　埼玉県　鳥山　由貴子
アルディージャ色のポストや穴惑　さいたま市　駒　町
小春日やふくらんでゐるふくろ絵馬　東京都　藤色　葉菜